

東町（ひがしまち）

鎌倉時代の文永 11 年（1274 年）端宝山本光寺開創、椎ヶ脇神社も建立。東とは、古い川の東側にあったから。徳川家康が戦いに負けて逃げる途中、この川の船頭に向こう岸に送ってもらったお礼に、「以後、そぶ川と名乗るがよい」との、「そぶ川」のいわれがあり、曾布川の旧家がある。権右衛門新田の一部と中新田の一部の土地を合併した。

河輪町（かわわちょう）

旧芋瀬村で「いも中瀬村」ともいう。慶長年間戸数 70 戸、中瀬は川の中州の意、芋が流れ生えた伝説がある。戦国時代の永禄年間（1560 年頃）天泊水神社建立、元亀元年（1570 年）宝林山興福寺開創。天泊水神社をはさんで、芋瀬の上（かみ）下（しも）があり、芋上は掛塚街道の要衝の地で、また天竜川を利用した材木の集積地で製材所が営まれていた。芋下は天竜川枝流れの小川に挟まれた地で、鈴木の家がある。明治 6 年芋瀬学校が創設された。浜松市合併の折、芋瀬が河輪村の河輪を町名につけて残した。長十郎新田川端が河輪町に編入された。

長田町（ながたちょう）

旧長十郎新田村で 江戸時代のはじめ、大塚村より移ってきた長十郎によって開発された。神明神社慶長元年（1696 年）開創。権右衛門新田の一部を合併した。

三新町（さんしんちょう）

「みあら」ともいう、向新田村、茅野新田村、辰新田村の三つの新田が明治 9 年合併して出来た。茅野は「ちがや」の生え茂る野の意味、辰新田は茅野より辰巳（東南）の方向の意で、向新田は茅野の向かいにあるからである。寛文 5 年（1665 年）掛塚村の松山庄左衛門が江戸表に請願、開発許可され、茅野新田村とした。向新田・辰新田もほぼ同時代に開発された。中泉代官管轄。その後、掛塚の藤田市郎衛門、下前島の鈴木三郎兵衛等が入り、開墾が進んだ。特に鈴木家は豪農となり、田畑約 10 町歩を所有し、近隣より「オダイ」様と呼ばれていた。古川寄合新田が昭和 3 年に合併し、昭和 32 年には川口町も編入した。

令和5年度 地域力向上事業 地域愛称マップ(河輪地区)

企画・発行 / 浜松市
(浜松市 南行政センター 南陽協働センター)

御協力 / 河輪地区自治会連合会
・西町自治会
・東町自治会
・河輪町上自治会
・河輪町下自治会
・三新町自治会
・長田町自治会
・富屋町自治会

参考 / 懐かし思い出 河輪の里あの道この道 愛称標識の由来
(河輪地区愛称標識設置委員会)
南区ガイドマップ(南区地域力向上事業)

デザイン・印刷 /
株式会社クリエイティブプロジェクト・ズーム